

地域実践研究成果の紹介

交流及び共同学習における個別の配慮検討シート 特別支援学級における交流及び共同学習に関する 合理的配慮の充実に関する研究

特徴

児童に関わる教師が、指導の工夫をを話し合うためのシートです。個別の配慮検討シートは、交流及び共同学習で行う学習内容に対して、事前に、児童にどのような困難さがあるのかを予想して、個別の配慮(指導の工夫)を検討するためのシートです。検討を行うことで、特別支援学級で事前学習を行ったり、教材の工夫を行ったりしやすくなります。また、この取組を積み重ねていくことで、児童に必要な合理的配慮はどのようなものかを考えやすくなります。

活用していただきたい方

- ・ 特別支援学級を担当する先生
- ・ 特別支援教育コーディネーターの先生
- ・ 交流先の通常の学級の先生

研究成果の活用

交流及び共同学習の内容について、特別支援学級の先生と交流学級の担任の先生とでシートに沿って以下について検討します。

- ① 困難さの予想
- ② 困難さに関連する児童の実態を整理し、個別の配慮を検討
- ③ 授業の見直しと個別の配慮の決定

また、必要があれば、授業の事前学習を特別支援学級で行い、充実した学習ができるように支援します。

(児童名) [月 日 () 時間目]

教科・ 単元名	交流学級		特別支援学級	
	本時の 目標	単元名、本時の目標を特別支援学級担任と交流学級担任がそれぞれ記入する		
学習活動	← 予想される 困難さ	・ 要因として考えられること ◎ 得意なこと、できること	→ 検討した配慮	評価 ○△
学習活動は 授業者が 記入する	① 困難さを 予想する。	② 困難さに関連する児童の実態を整理し、 個別の配慮を検討する	③ 授業の見直しと 個別の配慮の 決定をする	授業後に 個別の配慮 の評価を する。

☆ 個別の配慮 ★ 学級全体への支援

個別の配慮の評価…○効果的だった。 △改善が必要。

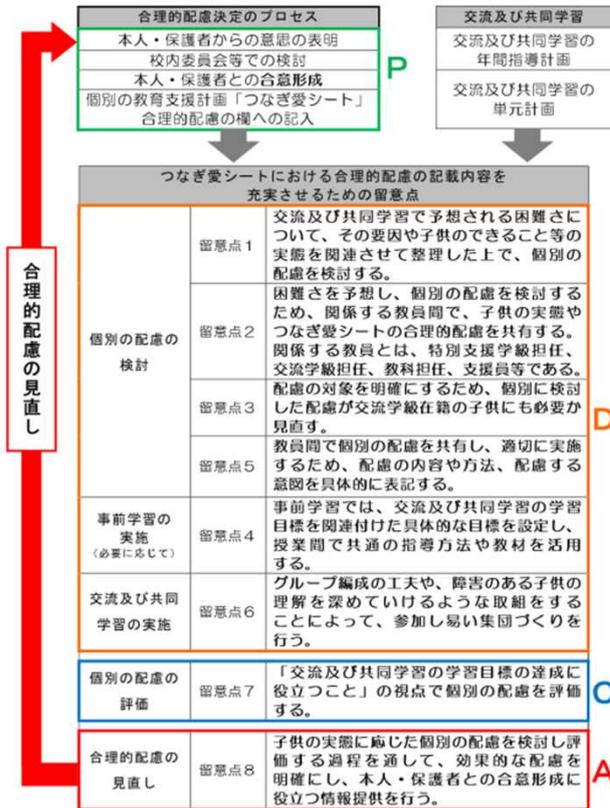
シートを用いることで

- ・ 打合せ項目の共通化
- ・ 合理的配慮を検討する際の材料
- ・ 学習内容の評価項目の参考等に役立ちます。



研究の内容と主な成果

特別支援学級に在籍する児童の交流及び共同学習において、児童の実態に応じた個別の配慮を行うために、児童の困難さと学習の充実を図る指導の工夫を検討した上で、どのような配慮を行うべきかを考察し、整理することを目的とした研究です。研究では、PDCAサイクルの中で、個別の配慮の検討と評価を行い、児童の合理的配慮を考えるプロセスと配慮点を明らかにしています。



この研究では、合理的配慮の記載内容を充実するために

- ・ 個別の配慮の検討
- ・ 事前学習の実施
- ・ 交流及び共同学習の実施
- ・ 個別の配慮の評価
- ・ 合理的配慮の見直しの5つステップを設定し、そのステップが循環することで、児童の実態や個別の配慮内容を明確化していくことを提案しています。

インクルーシブ教育システム構築との関連性

1. 体制整備 : (1 -1) 校内の支援に係る体制整備
4. 指導体制 : (4 -1) 指導体制の整備・充実
5. 交流及び共同学習 : (5 -1) 交流及び共同学習の実施のための具体的な取組

*インクルーシブ教育システム構築の観点は、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容は報告書をご覧ください

地域実践研究 学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究 報告書 合理的配慮の検討プロセスに関する取組
特別支援学級における交流及び共同学習に関する合理的配慮の充実に関する研究 (和歌山県)